

「多様な人材が輝くグローバル社会へのアプローチ女性研究者支援を足がかりに」をテーマに、四国5大学連携女性研究者活躍推進シンポジウム2015(2015/12/8)が、徳島大学で開催されました。筑波大学ビジネスサイエンス系教授吉武博通氏による「大学が拓く未来とダイバーシティ」と題した講演では、これからの大学に相応しいガバナンスとマネジメントの確立を目指す中で、女性研究者活躍推進の課題にどう取り組むべきか、様々なヒントを得ることができました。

パネルディスカッションでは、連携大学及び連携企業より出産・育児を体験した女性研究者5名による自身のキャリア形成、ワークライフバランスについての紹介及び女性研究者支援についての意見発表があり、当事者から見た女性研究者支援について多様な実態を知ることができました。愛媛大学からは土屋旬先生(地球深部ダイナミクス研究センター准教授)がパネリストとして参加されました。

四国地区国立大学女性研究者19名による一人1分のショットガンプレゼンテーション、ポスターセッション(21名)、企業紹介(8社)も開催され、四国地区の女性研究者間と女性研究者を応援する企業との交流が行われました。愛媛大学からも3名の若手女性研究者が参加しました。以下、参加者の感想です。

●沿岸環境科学研究センター研究員 落合真理

文部科学省の唐沢室長より、女性活躍推進法や科学技術基本計画案など国家政策としての支援や、女性研究者の割合といった統計学的データについての説明があり、我が国の女性研究者の置かれる現状を知ることができた。また、パネルディスカッションでは、研究者・教育者として活躍されながら結婚、妊娠・出産との両立に成功されている先輩女性研究員の方々の体験談を聞くことができ、有意義であった。様々なサポート制度を利用されながら、結局は自分で切り開いていかれた力強さを感じることができた。とくに、「育児と仕事を両立させる術はいくらでもある。その時々状況に合わせて判断すればよい。」というメッセージは印象深く、今後行き詰まることがあっても、打開策を見つける努力を最大限にしようと誓った。ポスターセッションでは、「瀬戸内海に生息するスナメリの汚染とリスク」をテーマに発表した。

●理工学研究科 D1 佐々木志乃

シンポジウムに参加したことは、これから研究者として将来どうしたいかを考えるための良い機会となりました。どれくらい女性の研究者が大学や企業で活躍しているか、実際に数字で見ると非常に少ないと感じました。さらに、実際に四国で活躍されている先生方の経験談でとても苦労したことなどを聞いて自分の将来が不安になり、もっと頑張らないといけないと思いました。

また、専門分野の異なる若手研究者の方々とも交流することができました。他の女性研究者の方が活発に研究をしておられることを肌で感じ、これからの研究活動へ良い刺激となりました。